

azbil グループが提供する産業システムの安全

アズビル株式会社
取締役 執行役員常務
アドバンスオートメーションカンパニー社長
岩崎 雅人

2013年よりazbilグループの新中期経営計画がスタートし、2016年の最終年まで残すところ2年となりました。当計画での成長領域の定義は以下の通りです。

【3つの成長事業領域】

1. 生産および執務居住空間での次世代ソリューション
2. エネルギーマネジメントソリューション
3. 安全・安心ソリューション

今回の特集は、安全・安心ソリューションを取り上げました。

ここでは、産業システムという広い概念の中で、azbilグループの工業向けソリューションについて概要を紹介します。

(1) プロセスオートメーション分野

高温高圧流体を原材料とし、複雑なプラント装置の24時間連続運転を基本とするプラント操業では、安全操業こそ絶対の価値です。

ここでは、二つの視点があります。

(A)プラント運転状態が、非安定に移行していることを未然に察知して、安定状態を継続するために、オペレーション操作する。

(B)プラント操業の限界を見極め、安全に停止する。

(A)については、日常巡回点検を含めた保全作業、運転状態を常時監視し定常状態との差異を発見する予防保全オペレーションが該当します。azbilグループでは、これを可能にするリモートメンテナンスを含めた日常保全活動、オペレーション操作を支援する各種支援ソリューションソフトウェアの開発をお客さまとの協働で実施しています。

(B)については、地震計と安全計装を組み合わせたソリューションを提供し、お客さまの震災対応からBCPまでを広くカバーするために協働しています。

(2) 炉の燃焼安全計装分野

ガスを燃料とする工業炉での安全を担保するためには、燃焼の不具合が引き起こす可能性のある不完全燃焼などの環境影響を含め、安全設計の重要性は極めて大きいものがあります。ISO規格にもこの燃焼安全に関する、安

全性を重視した施策がうたわれています。azbilグループでは、長年経験してきた現場での課題解決のため、燃焼安全計装という分野の国内第一人者として、火災監視からインターロック、緊急遮断弁を含む計装装置をトータルで提供しています。

(3) 機械安全分野

プラントや工場では、危険場所(ハザード)が定義され、特に機械や設備への人のアクセスに関しては、十分な注意を払わなければなりません。azbilグループは日本電気制御機器工業会(NECA)のメンバーとして、機械安全に対するキースイッチ、センサなどのデバイスの提供にとどまらず、セーフティアセッサ資格制度を奨励し、グループ会社も含めた安全人材教育に力を入れています。

(4) 新たな脅威への対応

今号の巻頭言で電機通信大学の新教授が指摘しているように、安全を脅かす新たな脅威として、ネットワーク社会における産業システムへのサイバー攻撃があります。azbilグループは、技術研究組合制御システムセキュリティセンター(CSSC)の活動に理事会社として参画し、2014年にはazbil製のDCSコントローラが、CSSCにてEDSA認証*を取得しました。加えて、当グループには、ソフトウェアのウイルスに関する研究開発・商品販売を実施するアズビル セキュリティフライダーがあり、マルウェアの検出ソフト技術で、お客さまのネットワークの安全に貢献しています。

今回の特集に関して、簡単にazbilグループの取り組みを紹介しました。

「人を中心としたオートメーションで、人々の安心、快適、達成感を実現するとともに、地球環境に貢献します」という企業理念の下、産業システムの安全において技術をさらに進化させることでお客さまに価値を提供し続けてまいります。

*制御機器のセキュリティ保証に関する認証制度